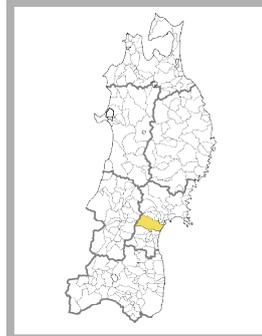


仙台市(宮城県):長町地区ループバス「ながまちくん」

新興住宅地とJR駅、地下鉄駅を結ぶ市街地型循環バス

人口	1,025,098 人	モード	路線バス
面積	783.54 km ²	法令	道路運送法 第4条
人口 密度	1,308.29 人/km ²	運営 主体	宮城交通



■ 取組の背景

地域と交通の状況

- 仙台市南部の中心街である長町地区は、市営地下鉄が縦貫し、地区内に3駅が設置されているほか、JR駅もあって、鉄道利便性は高い地域であった。
- 近年、市内最大級のショッピングモールが地区内に開設され、また「長町南」「富沢」などの新興住宅地が広がるなど、都市構造の変化に伴うバス路線網の見直しが必要であった。
- 特に、住宅地の多くは、既存バス路線のメインルートから外れていること、地下鉄駅には徒歩で20分を要することから高齢者を始めとした地区住民の住宅地～地下鉄駅間移動の潜在的な需要が見込まれたため、ループ型路線の循環バスの運行を決定した。

【交通不便地域の存在】

活用メニュー(制度・協議会等)

- 平成12年11月の運行開始より民間バス事業者の営業運行として実施。国、県、市等からの補助は受けていない。

【公的補助なし】

■ 実現したサービス

サービス内容

【市街地循環バス】【商店街との連携】 【事業者の独自運行】

- 長町ループバス「ながまちくん」は、平成12年11月の運行開始にあたり、武蔵野市の「ムーバス」を参考にコンセプトがたてられた。
- 路線は、長町南車庫前を起終点として、JR長町駅前、地下鉄長町駅前、新興住宅地内の長町南三丁目、広南病院前、地下鉄富沢駅前、仙台市体育館前、長町南車庫前を循環するループ型をしている。
- 運賃は、大人100円、子供50円ではじめたが、平成17年7月に150円に値上げした。
- 運行間隔は、20分毎で利用者から時間が読めるように設定した。運行本数は、1日32便。
- バス停の間隔は、300～400mと短く設定した。
- 車両は、小型ワンステップバスを導入した。
- 車体の前面、側面にある子犬のキャラクターは、100円の「ワン」コインと子犬2匹のキャラクターで「ワンワンバス」をかけたもの。
- 愛称の「ながまちくん」は、地元の人々に親しみやすいイメージとして宮城交通が考え採用した。

長町4丁目	
6	
7	
8	30 50
9	10 30 50
10	10 30 50
11	10 30 50
12	10 30 50
13	10 30 50
14	10 30 50
15	10 30 50
16	10 30 50
17	10 30 50
18	10 ●30 ●50
19	

●は、「地底の森ミュージアム前」が終点

図. 時刻表

■ 効果と負担

効果

【利用者数の増加】【新たな市場の開拓】

- ・ もともと人口の多い市街地の中心部で、バス空白地であったため、潜在需要はあったので、平成 12 年 11 月の運行開始から平成 16 年度まで、4 年間利用者数は増加した。その後 17 年度から 19 年度は、横這いであるが、現在の 29 人乗り小型バス 2 台による運行としては、高止まりと見ることもできる。
- ・ 平成 17 年 7 月の運賃値上げ(100 円から 150 円)後も、利用客数は落ちなかった。
- ・ 地域住民に好評であり、特に雨の日の利用者が多い。
- ・ 運転手は、同社OBの嘱託職員の採用によりコストを安く押さえている。
- ・ 同社にとって最大の効果は、従来の路線バスが朝・夕の通勤・通学輸送に主眼を置き、昼間時間帯は需要が落ちると考えられていたが、「ながまちくん」は、昼間時間帯に需要が伸びるため、同社の旅客市場に対する考え方に新たな市場としての分野が加わったことである。

負担

【公的補助なし】

- ・ 宮城交通の独自運行であり、仙台市からの補助金負担等はない。

■ プロセスと調整

計画策定と基本方針

【プロセス:目標設定】

- ・ 宮城交通では、運行実施前に長町の仙台市南部の中心街である立地と人口、公共交通の現況(バス空白地域)、新興住宅地の広がり等を調べ、当時注目されていた武蔵野市の「ムーバス」を参考にして 100 円で循環するコミュニティバスのようなコンセプトの計画策定が進められた。
- ・ 地域住民からも同社に直接、バス運行の要請があった。

運行開始後のフォローアップ

【プロセス:フォローアップ】

- ・ 当該地域の 3 つの町内会の会長と同社の協議の場を設け、路線の変更、延伸、運行時間、運賃等について意見交換を行った。その結果、一部路線の変更を行った。

他バス事業者との調整

【調整:対事業者】

- ・ 他事業者とは路線がかぶらないので調整はなかった。むしろ社内調整が大変であった。同社は、大型路線バスによる朝夕の通勤、帰宅輸送を基本としており、「ながまちくん」の運行時間は 8:30~18:50 に設定した。

■ 創意工夫・知見・教訓

昼間時間帯の需要開始

【知見:利用者利便の追求】

- ・ 地域住民の間で親しみやすいバスのイメージを定着させるため、「ながまちくん」という地名からのなじみやすいバスの愛称と子犬のキャラクターを採用した。
- ・ 当初、女性運転手(正社員)を採用し好評であったが、コスト低減のためOB運転手を嘱託として採用した。
- ・ 同社にとっての大きな知見は、従来の路線バスが朝・夕の通勤・通学輸送に主眼を置き、昼間時間帯は需要が落ちると考えられていたが、「ながまちくん」は、昼間時間帯に需要が伸びるため、同社の旅客市場に対する考え方に新たな市場としての分野が加わったことである。

■ 連絡先、参考 URL 等

連絡先：宮城交通営業部 電話 022-771-5312

参考 URL：「ながまちくん」の路線図マップ・時刻表 <http://www.miyakou.co.jp/bus/route/nagamachi/index.html>

■ 資料編

表. 輸送実績

長町ループバス実績表

営業課

		H19年度	H18年度	H17年度	H16年度
4月	輸送人数	13,020	12,889	12,989	13,812
	便当り(人)	13.6	13.4	13.5	14.4
5月	輸送人数	12,940	12,507	12,679	13,318
	便当り(人)	13.0	12.6	12.8	13.4
6月	輸送人数	12,506	14,030	13,255	14,100
	便当り(人)	13.0	14.6	13.8	14.7
7月	輸送人数	13,801	16,276	14,861	15,080
	便当り(人)	13.9	16.4	15.0	15.2
8月	輸送人数	13,228	14,860	14,998	15,156
	便当り(人)	13.3	15.0	15.1	15.3
9月	輸送人数	13,956	14,972	14,571	14,065
	便当り(人)	14.5	15.6	15.2	14.7
10月	輸送人数	14,240	14,487	14,282	14,357
	便当り(人)	14.4	14.6	14.4	14.5
11月	輸送人数	12,623	13,479	12,635	12,788
	便当り(人)	13.1	14.0	13.2	13.3
12月	輸送人数	12,430	13,451	13,149	12,477
	便当り(人)	12.9	13.6	13.3	12.6
1月	輸送人数	11,779	11,817	12,310	13,150
	便当り(人)	11.9	11.9	12.4	13.3
2月	輸送人数		11,848	12,933	12,371
	便当り(人)	0.0	12.3	13.5	12.9
3月	輸送人数		13,846	13,521	13,834
	便当り(人)	0.0	14.0	13.6	13.9
合計	輸送人数	130,523	164,462	162,183	164,508
	便当り(人)	13.3	14.1	13.9	14.1

※H17年7月15日、100円⇒150円値上げ

※H18年7月15日、新停留所設置

出典：宮城交通